

学校通信 強い網

2014年8月/9月号
新版 第68号
編集
駿台甲府高等学校
駿台甲府中学校
駿台甲府小学校

多面的に物事を理解する

中学校長・高校副校長 河崎哲郎

新学期が始まりました。この夏は台風、大雨、土砂災害といった自然災害が猛威をふるった夏でした。広島をはじめ各地で被害がありました。犠牲になられた方々のご冥福を祈るとともに被害に遭われた方々、今なお避難されている方々には一日も早く以前の生活を取り戻せることを強く祈っております。

ここ数年雨の降り方が激しくなり、日本ではあまり聞かなかった竜巻も随所で見られるようになりました。地球温暖化でただ気温が上がってくるだけでなく気候が変わってきていることを誰もが実感しています。また、自然災害によって起こっている被害も人災とも呼べるようなものも増えてきているというのも実感するところです。

英語を考える

最近の大学入試の変革問題の中で、新聞紙上を最も賑わしていることの一つに英語があります。英語によるコミュニケーション能力の低さが指摘されて久しいわけですが、本格的に「国際力」強化のための英語力が問われ始めたということでしょう。我々の時代の英語の授業と云えば、リーダー(当時はリーディングではありません)、

グラマー、コンポジションと分かれており、その全てがある意味大学に入るために存在していたような気がします(実際は違いますが)。大学では新たな知識を得るには英語が正確に読めなければならぬといった事情もあつたのでしょうか。当時、英文に返り点や一、二と印をつけさせ、漢文読解と同じような授業をしていた教員もいたと言われているくらいです。

文科省が中高の英語の授業を原則英語で行うことを学習指導要領に明記した時、多くの進学校では、「冗談じゃない、複雑な英文解釈を英語で出来るわけがない。」「大学入試が現状のまま、英語で授業をすることの意図が分からない。まず大学入試からの改革だろう。」という声が多く聞かれました。あれから数年しか経ってないわけですが、時代が急速に変わってきたということなのでしょう。先ほどのような声はほとんど聞こえなくなってきました。日本全体が、英語を学ぶから英語で学ぶ必要性に迫られてきているのです。大学もグローバル化の波の中、英語で行う講義が増えている傾向にあるそうです。首都圏の有名私立高校のトップの生徒達の第一志望が海外の大学というケースはもう珍しくないと聞きました。そしてこのような時代に適した英語力を生徒に身に付けさせることが我々英語教員の使命なのです。競争試験で1点2点を競わせる材料として英語を使うというより、

資格試験で一定の英語力を証明できればよいという人もいます。つまり、英語って何? と考えなければならない時が来たということとです。

自分の考えを述べる

英語って何?と聞かれたら、皆さんはどう答えますか? 「ゲルマン語族」が頭に浮かぶ人はそうはいないと思いますが、「世界共通語」ということが真っ先に思い出される人は多くいるでしょう。また、「理文関係なく大学入試でカギを握る科目」と昔の苦しい思い出が蘇る人もいることでしょう。さて、この質問が学級懇談の場で聞かれていると想像してみてください。さつと手が上がりますか? 最初に手を上げて、頭に浮かんだことを述べる方は恐らくそう多くはないと思います。生徒達でもそうですから無理はありません。彼らはなかなか手を上げて発言しません。小学校のころはよく手を上げていたのに。それは年と共に成長している証拠なのでしょう。思春期に入ってきているから仕方ないのでしょうか。控えめを美德とする国民性なのでしょう。どれもそうだと思いますが、もっと大きな理由があると思っています。それは、小さい時から、先生に「分かる人? 」と聞かれ、分かる人が手を上げ、先生が指して、指された生徒が正解を答える、というのが正當な授業の受け方と教え込まれてきているからです(学級懇談は授業ではありませんが)。英語って何? という質問に正解なんかありません。それぞれ視点が違うわけですから当然です。そしてその違った視点からの発言に、何故そう思うのかといった質問が出て、議論がなされていきます。こういった討論型の授業も講義型と合わせて行ってい

かなければなりません。討論型の授業は物事を多面的に捉えるようになる良い機会だからです。物事を多面的に捉えるということとは、その本質に近づくということとです。様々な人と話す場を増やそう

最近、極力いろいろな人の講演会へ行ったり、様々な研修会へ出るようにしています。仕事柄どうしても教育関係者が多くなってしまうわけですが、行ってみると必ずと言ってよいほど、何かしらの活動をさせられます。ただ座って聞いて、あるいはノートを取ればおしまいということは殆どありません。齊藤孝氏の講演会では前に座っている人(当然初対面)と「自分の読んだ本の中で最も感銘を受けた本について」喋り捲るといふこととさせられました。また藤原和博氏の講演会では前後左右4~5人のグループを作られ、ブレインストーミングの練習もしました。大人の我々もこれらの社会を見据え、どんな新たな考えを吹き込んで前進して行かなければいけない、特に教育に携わる者ということとです。年を取ればとるほど頑固になり、考え方も画一化し、新たな発想を出す柔軟性がなくなってくるものです。思春期の子供を持つ親御さんも、いろいろな視点で子供を客観的に見られるように、また今の生徒達は我々の時代とは違う時代にいるということを意識できるように、外へ出ていろいろな人と接する機会を増やすことをお勧めします。自分はどうやってきたからそれでいい、これではいけない。積極的に新たな出会いを求め、とりわけ異業種の方との出会いは大切にし、いろいろなことを更に多面的に捉えて行けるようにしたいと思っています。

高校より

インターハイ陸上競技 8種競技

山下黎君(3年) 全国3位!!

陸上競技部 副顧問 浅川啓太

7月30日〜8月3日までの5日間、地元山梨県においてインターハイ陸上競技の部が行われました。本大会で全国3位という大記録を残し、駿台のみならず山梨県全体を元気づけてくれた山下黎君。今回は山下君に、大会に懸けた思いや大会中の心境などを振り返ってもらいました。

『自分は8種競技という種目に出場しました。2日間かけて行う競技ですが、最初の種目である100mでトップに立ち1位のまま1日目を終えることができました。自分は2日目の種目が苦手でしたが、1種目の110mHで自己ベストを大幅に更新し、このまま1位を狙うこともできるのではないかと思います。しかし、最後の種目である1500mを残して4位まで順位を落としてしまいました。目標である3位以内に入るためには、3位の選手に6秒以上差をつけなければならなかったため、より一層気合が入りました。1500mを走る際には、駿高生のみならず県内の陸上競技部員が総勢300人程集まり、自分のために集団応援をしてくださいました。本当に幸せ者だと感じましたが、それ以上に応援してくださる人達のためにも絶対に3位以内に入ることを改めて誓い、力を振り絞って走り切りました。電光掲示板に「3山下黎(駿台甲府) 5649点」と表示された時は本当に嬉しかったです。自分1人の力では3位に入ることができなかったと思います。応援してくださいました方々本当にありがとうございます。最高のインターハイになりました。』

南関東の厚き壁を突破し、見事地元山梨に帰ってきた駿台の選手は、山下黎君と山田美衣さんの2名。山田美衣さんは惜しくも予選突破はなりませんでしたが、現在2年生。これからが非常に楽しみな選手です。陸上競技部は、今後も精進してまいりますので温かく見守っていただけると幸いです。多くのご指導やご声援、本当にありがとうございます。



受験生の夏

進路指導部主任 小笠原理

「受験生の夏」を伝えることは、まだ受験が先の人たちにとっても意味があると思われるので、この夏を高三生がどう過ごしたかについてお話しします。

終業式の前後の三者面談は、これまでの三者面談とは別ものになりました。まずは志望校を具体的にリストアップする作業から始まりました。入試方法は多様化していますので、どの入試方法を使うかも検討しました。また、模試のデータから、現在の学力を確認し、この夏の戦略を立てました。苦手科目の学習をどうするか、得意科目をどう伸ばすか…。

七月下旬の校内講習の形式は一、二年生と同じですが、受験が近い分、三年生の本気度が違います。そんな生徒たちに刺激さ

れ、教員側も指導に熱が入りました。

八月に入り、中学生向けの体験入学の午後は化学の校内講習がありました。この講習の後、東京大学に進学したOBから夏の過ごし方について、話をしてもらいました。先輩からのアドバイスは受験生の心にとつと入っていくようでした。

八月上旬には、数学の校内講習があり、新課程対策と東大実戦対策が行われました。それと並行して大ホールで学習会も行われました。その一方で、コンピュータ室でオンデマンドという映像講座を観る三年生も多くいました。オンデマンドでは、自分のペースでどこからでも、何度でも視聴が可能ですが、基礎的な内容を扱う講座から、難関大対策の講座まで、自分の実力にあった講座を選ぶことができます。この講座をテキスト代のみ格安の料金で利用できるのが駿台甲府高校生の特権です。

東大実戦と京大実戦が終わると、予備校講習が行われました。八月中旬に二つの会期(各会期4日間)にわたり、駿台予備学校から化学、日本史、世界史、現代文、古文、漢文、物理、生物の8人の講師を迎えました。これらの講習は東京の駿台予備学校で高卒及び高三生向けに行われているのと同じの内容を同一のテキストを用いて行われるものです。受講料は予備学校で受ける場合に比べて四分の一以下に設定されています。

始業式直前にも学習会がありました。昨年までですと、夏休みの課題に追われる姿が目につきましたが、大学入試の過去問に取り組む生徒がいたり、小論文を書く練習をする生徒がいたり、昨年までとは違う姿が見られました。

東京の駿台予備学校の夏期講習に参加した生徒たちもいました。全国から来た受験生たちと共に学んだことで、いい刺激を受けて帰ってきたようです。

箱根セミナーに参加して

2年H組 鈴木稜貴

Explore myselfという言葉がある。私が箱根セミナーで強く胸に響いたのは、まさしくこの言葉である。私は将来、医療の道を目指そうと思っている。そこで、もし目の前に困っている人が現れ、自分の自堕落により、その人を救えなかつたら、私は謝ることが出来るだろうか。いや、できないだろう。私たちの夢を生かすも殺すもその人次第である。だから私たちは自らの可能性をExplore itしなければならぬのだ。

2年H組 渡辺怜

箱根セミナーの魅力は、もちろんレベルの高い授業が挙げられますが、それ以上にためになるのが、現役の大学生との対話です。僕は、東大・京大をはじめとする難関大に合格した「リーダー」との対話を通して、勉強方法や、学校の使い方、良い参考書、大学生活などなど、膨大な量の情報を得ることができました。また、4泊5日を同じ部屋で過ごした7人の仲間とも連絡を取りながら、第一志望を目指す覚悟ができました。

新任教員の紹介

高校普通科 ロバーツ・リサ(理沙)

今年度の2学期より駿台甲府高校で英語を教え始めました。駿台の前は5年間、甲府南高校でライティングやサイエンスイングリッシュを教えていました。その前は4年間、アメリカで理科を教えていました。私の一番大切な目標は生徒の皆さんが勉強に積極的に取り組むことが出来るようにお手伝いすることです。よろしくお願ひします。

中学よい

夏の中学校単独研修会

副校長 齊藤昌一

夏休みの初めに、画一的学習ではなくIT機器の活用も考えながら「授業の活性化」を目的とした「中学校単独研修会」を行いました。各教科（国語・数学・理科・社会・英語・保健）からの電子黒板の現状利用について、また、今後の活用についてシステムサポートを依頼している加藤氏（CloudCare）から話を伺い電子黒板の活用タブレットと電子黒板の連携活用の考察をしました。

中学校の授業内の使用では、本文を生かして解説文の記入や変更がわかりやすく授業の短縮化ができる。立体映像の理解に効果がある。本文内の資料や歴史やデータ解説が画像とともに利用できる。インターネット接続による動画映像や立体地図活用がポイントごとに正確・鮮明にできるなど、生徒の興味関心を強く引くつけ、積極的に授業に取り組む姿勢があり、内容理解に効果が窺える状況があるという発表がなされました。また、小学校授業教材や利用方法の一部紹介も行われました。そして、今後の利用や活用の拡張を行う上でのハード面・ソフト面について、ハード面は電子黒板をH R教室に設置しながら、インターネット環境整備やタブレット導入をどのように進めるのか。ソフト面はこれからますます進化するデジタル教科書や先生方が独自に作成するオリジナル教材、動画教材の活用と対応が必要であるという意見や考えが話されました。また、導入課題として、利用のガイドライン、ルールの整備、セキュリティ教育（インターネット利用の事故防止、

ネットワークの利用制限、フィルタリングなど）を研修しました。この研修会を踏まえてこれからも「授業が真ん中」で充実した授業を行ってまいります。

緑陰教室の実施について 新田 真也

本校では夏季休業期間（七月下旬〜八月上旬）に、一・二学年の全生徒を対象とした二泊三日の緑陰教室を実施しています。これは、避暑地にある駿台グループの施設（軽井沢学習研修所「駿台清里高原ロッジ」・「箱根セミナーハウス」）を利用し、無言学習を中心に、三日間で約八〇〇分の自習を通して学習集中力を養うことや、集団生活における規律やマナーを学ぶことなどを目的に、開校当初より行われている伝統行事の一つです。

近年は、学習の合間に、男女の特性を踏まえたプログラム（スクールカウンセラーによる思春期講演会など）を行うため、男女別で実施しています。わずか三日間ではありますが、親元を離れ、集団生活をしつつ、学習に励むことで、生徒各人が大きく成長することが出来る行事となっています。



海外研修 鹿山 さおり

便利な世の中になり、テレビやインターネットを通じて世界の動きや情報をいち早く手に入れることができるようになりました。イスに座っているだけで、世界のこと何でもわかるのです。

6月に、本校ではフィンランドからの短期留学生と交流を持つ機会がありました。地球儀の上方に存在する国からやってきた可愛らしい子が、3か国語を話すこと、上手に箸を使ってお弁当を食べること、文化祭の学年合唱では、日本語の歌詞をすつかり暗記して、見事に歌い上げたことに皆で感動しました。

さて、この3月には、学校主催の海外研修が復活します。滞在先はオーストラリア、日本とは四季が逆になる自然豊かな国です。3年生が参加対象となりますが、今度はみなさんが日本という国を発信し、相手国の文化を肌で感じる絶好の機会となります。

私ごとですが、日本でまだ250 mlの缶ジュースしかなかった時代、350 mlのコアラを手にして、アメリカは何てすばらしい国なんだ、と感動したのを覚えています。英語という枠に囚われず、新しいことにチャレンジするつもりで、日本を飛び出してみましよう。

月並ですが、「百聞は一見にしかず」とはよくできた言葉です。実際に体験することは、目の前で流れてくる画面からは得ることはできません。十五の春を一生の宝物にしてはみませんか？

関東大会報告

男子テニス部 永山 一宏

今年の関東中学生テニス選手権大会は、8月5日と6日に小瀬テニス場で行われました。本校は、主将嶋崎律己を中心に、本戦一回戦でシード校の石神井東中（東京）に2-3で惜敗。続くコンソレーションマッチ一回戦で茗溪学園中（茨城）を3-2

で下して二日目に進出しました。しかし、翌日慶応湘南藤沢中（神奈川）に0-3で破れ、今年も全国大会への進出はなりません。試合内容には大きな力の差はなく、悔しい結果となりました。選手の健闘を称えたいと思います。

男子ハンドボール部顧問 吉田 侑人

第43回関東中学校ハンドボール大会が8月7〜9日に群馬県富岡市で開催されました。栃木県野木中に惜しくも19対20で負けてしまいましたが、生徒たちにとって、目標である関東大会に出場し、プレーをしたことは一生の財産になると思います。3年生はこの経験を活かしてこれからの生活の糧にしたいと思います。

陸上部顧問 武川 公貴

陸上競技部の今井貫人（3年C組）が8月7〜8日に神奈川県で行われた関東大会で110 mハードルに出場しました。今井にとつて初めて関東大会でしたが、舞い上がることなく平常心でレースに臨んでいました。決勝進出は逃しましたが、関東大会という大舞台で自己ベストを更新しました。11月には全国大会にも出場しますので、応援よろしくお願いします。

水泳競技に出場 齊藤 昌一

第38回関東中学校水泳競技大会が、8月10日（日）〜12日（火）茨城県ひたちなか市笠松運動公園室内水泳プール（長水路50 m）で行われ、県予選会を突破した1・2年生男子4人が出場しました。会場は全国大会を開催したすばらしいプールで、生徒は精いっぱい力泳をしましたが、決勝進出は逃しました。今後の県内大会の泳ぎにつながると思います。

小学校より

子どもと教師が積極的にな!

校長 坂本 宏行

全国の学校におけるICT環境の整備状況は、昨年3月での調査で、山梨県では、児童生徒用PCは4.6人に1台(全国二位)、電子黒板のある学校は約68.4%(全国三五位)、デジタル教科書は30.9%(全国二五位)であり、都道府県や地域によって大きな差が見られています。

さて、本校は、一昨年にデジタル教科書を整備し電子黒板を各学年に導入し、さらに四月には全教室に電子黒板を設置、そして九月よりタブレット端末「iPad Air」を三年生全員に配布し、試験的導入を開始しました。

前政権が、二〇二〇年までに子ども一人一台のタブレット端末を無償で配布して授業に活用すると掲げ、現政権では「二〇一〇年代に一人一台を実現する」と発表しています。小学校が先行し、中学校が後を追っているのが現状です。県内を見ても大きな差がありますが、すでに児童生徒全員にタブレット端末を無償で配布している市町村もあります。

この急速な動きの背景には、一九九〇年代に設置した児童生徒用のPCの更新問題やICT(情報通信技術)業界の目覚ましい進歩があります。

タブレットのメリットは持ち運びができることにあります。コンピュータ教室に移動しなくても、HR教室の机の中から取り出して使えます。使い方は、授業以外の漢字や計算問題の反復学習などで、理科実験や動植物の観察、校外学習での見学、

体育の様子を撮影し、研究することも可能になります。また、読み書きの苦手な場合でも、文字を拡大したり、筆順を動画で見ることできます。そして、写真・動画や自分で作成した資料を使って積極的にプレゼンテーションができるようになることでしょう。

一方、デメリットとしては、五感を伴わないことがあげられます。「わかったつもりでは思考力や創造力は育ちません。理科や社会でも、実験や体験を通じて手触りや匂いや音を伴って学ぶことから探究心が生まれます。また、子どもたちは、計算や漢字ドリルのアプリをゲーム感覚で喜んで取り組むでしょうが、一過性に過ぎません。

本校が考えているタブレットは、「意欲的・創造的に学習する姿勢や学力向上」を目指し、子どもたちの興味関心を高め、自主性を引き出し、発表力を高め、思考力や想像力を深め、アイデアを具現化するための補助教材として活用することを考えています。

「読み・書き・計算」の定着、「なぜ、知りたい」という心を育て、身につけた知識のアウトプット(発表力)や今までできなかった表現が可能になるはずで、教室以外にも観察記録やグラウンドや校外学習での撮影記録などに活用していきます。

タブレットを導入すれば教育が変わると考えるのは大きな間違えで、むしろICT機器を活用して教師が子どもたちの思考力や想像力を伸ばすためにどんな授業を目指し、どんなシナリオを作っていくのか、が重要だと考えています。

ぜひ、駿小のチャレンジにご期待ください。

幼稚園との連携について

副校長 内藤真一

駿小では、幼稚園との交流・連携を進めています。今年度も市川南幼稚園、貢川進徳幼稚園、甲府西幼稚園の年長生が駿小を訪れ、児童と楽しく遊び・学びました。

この幼小連携の狙いは、幼稚園の園児(保護者)・園の先生方に駿小の教育内容を理解してもらいたいということにあります。しかし、実施してみると、これ以上の効果があることがわかりました。甲府西幼稚園の園児を迎えたのは小学一年生でした。一年生は半年前までは、幼稚園生です。この半年でずいぶん成長したとは言え、小学校のなかでは一番幼く、中学年、高学年のお兄さん・お姉さんいろいろなことを教わり、やつてもらおう立場です。縦割り活動の様子を見ても、高学年の園児から大事にされています。ところが園児を迎えるときは、一年生はお兄さん・お姉さんになります。お兄さん・お姉さんになると責任と自覚が生まれます。小学生を成長させるというのが大きな効果というわけです。

8月28日の甲府西幼稚園との交流の様子を紹介します。最初、小体育館で「わらべうた」や「リズム遊び」をしました。これは山梨県立大非常勤講師樋口先生(駿高25期樋口仁郎君のお母さん)の指導によるものです。樋口先生は一学期に何度か駿小で「わらべうた」の指導をしてくれました。今日はその指導の集大成でもあります。県立大生もお手伝いに来てくれました。

最初の「かわのきわの」ではみんなで歌いながら輪になって回り、歌が終わるときに示された数字の人数でグループを作りまします。初めのうちは小学生だけのグループ、園児だけのグループしか作れませんでした。何回行ううちに小学生と園児が混ざるようになり「あと2人、こっち来て」という声も飛び交い、小学生がだんだん仕切

れるようになってきました。「おちゃらか」は一年生が幼稚園生に教えます。園児を指導する一年生はちよつと自慢気です。最後は「リズム遊び」。一年生と幼稚園児が一緒にグループを作り、与えられたリズムに歌詞を乗せるというものです。だんだん一年生がリーダーシップを発揮してきました。「小さい子の意見も聞こうよ」という声も各所で聞かれます。使う言葉も「カブトムシ」や「夏休み」と言った季節にあったものになったり、「今度あそぼう」といった仲間を意識した呼びかけになったりしました。共通の関心事である流行の妖怪の名前も出てきました。

体育館での遊びが終わると、教室に入つて、給食の時間です。一年生が準備して、幼稚園児と一緒に食べます。一年生は給食の内容を幼稚園児に説明します。いつもは高学年の児童が放送でしている給食の説明を今日は一年生が行うのです。一緒に給食を食べているうちに、すっかり仲良くなりました。なかには、一年生が園児に食べさせるほほえましい姿も見られました。交流の最後は芝生広場での外遊びです。もう、すっかりお兄さん・お姉さん気分です。園児の手をとって、校内を案内しながら芝生広場に向かいます。園児が靴を履くのをじつと待っている一年生はなんだかたのもしく見えました。

駿小を訪問してくれた園児の皆さん、ありがとうございました。また来てくださいね。HPにも記事を載せています。ご覧ください。



県大会・コンクール報告

県吹コンで初の金賞を受賞！

吹奏楽部顧問 内山 晶夫

去る8月2日・3日にコラニー文化ホールで行われた第54回山梨県吹奏楽コンクール中学校部門Bの部で、本校吹奏楽部は「金賞」を受賞しました。創部9年目にして初の快挙達成となりました。曲目は江戸時代の浮世絵師東洲斎写楽をモチーフにした『写楽』という曲で、歌舞伎の世界と謎に満ちた写楽自身の姿を表現した和独特の繊細さと力強さが求められ、かつ変拍子を含むかなりの難曲。

部員達は、今年度の部の目標である『メリハリのある練習をし、吹奏楽を通して音楽を楽しむ』を常に心掛けながら、部のモットーである『奏和(そうわ)』―「皆の力を合せて、和を奏でる」の精神を十二分に発揮し、連日のハードな練習によく耐え今回の栄光を手に入れました。当日全体で4位という好成績で価値ある金賞を手にした彼らを称えるとともに、ここまで部員たちを熱心に導いて下さった外部指導者の天野先生に心より感謝したいと思います。卒業生も応援に駆けつけ、後輩達の偉業を称えてくれました。

12月には、厳しい内部選考を勝ち抜いた1・2年生が挑む、少人数編成(最大8名)のアンサンブルコンテストが控えています。次年度を占う重要なコンテストでもあり、8人編成で堂々の銀賞を獲得した昨年と同等以上の成果が挙げられるよう、今回の結果におけることなく、これからも日々の地道な基礎練習を欠かさずに、いい音作りを常に意識しながら、意欲的な活動を行っていききたいと思えます。

ハンドボール部県大会

男子ハンドボール部顧問 吉田 侑人

第65回山梨県ハンドボール総合体育大会

が7月24〜26日に塩山体育館で開催されました。

予選Bブロックを2位で抜け、準決勝はAブロック1位の山梨南中と対戦し、18・17で接戦を制しました。県選手権の決勝で敗れた相手だったために、生徒もとても喜んでいました。決勝では、予選で9点差だった塩山中に対し3点差まで食らいつくことが出来ました。大会期間中に生徒たちは本当に成長・進化していたと思います。念願の関東大会出場の切符を得ることが出来ました。

県総体を終えて

女子ハンドボール部顧問 手塚 美樹

対 藤 崎 西 中 9-16
対 塩 山 中 6-19

藤崎西中に1勝し、予選リーグを突破することを目標に、練習に励んできました。「今年こそは」と選手権大会・今大会と臨んだのですが、目標には達することができませんでした。結果はでませんでした。よく頑張りました。3年生には、ハンド部での経験を、今後の人生にも活かしてくれることを期待します。また、後輩たちには、先輩たちの想いを受け継ぎ、新人戦では、さらに成長した姿を見せてくれることを期待します。応援、ありがとうございます。

目標を達成すべく段階的に

男子テニス部顧問 羽澤 権

山梨県中学校テニス選手権大会、男子団体戦七連覇の原動力となった3年生は、関東大会で引退しました。必然的に2年生・1年生の大きな目標は、テニス選手権大会「八連覇」になります。生徒にとつては大きなプレッシャーですが、大きな目標を達成すべく、日々良

い準備・練習をしたと考えています。まずは、十月・十一月に行われる新人戦で、自己の限界に挑戦し、自分の「できること」、「できないこと」を見極めることがスタートだと思っています。

県総体を終えて

女子テニス部顧問 塩津 奈央

練習時間が少ない中で挑んだ試合でしたが、団体戦一回戦玉幡中とは接戦の末3-2で勝利することが出来ました。二回戦東中との対戦は、0-4で打ち切りという形で幕を閉じましたが、今まで組んだことのないペアで試合をしたり、新たな作戦で一勝を掴めたことは生徒にとつて大きな自信に繋がったと思います。また個人戦ではシングルス3名(うち1名は棄権)、ダブルス1ペアが出場しました。シングルス一年丸山のみ二回戦まで進むことが出来ましたが、他の生徒は一回戦敗退。県大会の壁が厳しいことを再認識させられました。新人戦に向け、個人でも「県」を意識出来るようモチベーションを上げていきたいと思えます。

県総体を終えて

男子バレーボール部顧問 柿澤 喜英

1回戦 対石和中 2-0 2回戦 対南
部中 0-2 ベスト16

1回戦は予想以上に苦戦したが何とか突破し、今年度の目標の県ベスト8を目指して2回戦に臨んだ。しかし、すべての点で南部中が1枚も2枚も上手で、完敗であった。ただ、選手たちには、自分たちのやれることはやれるだけやりきったという、率直に充実感のある敗戦だった。20期生、お疲れ様でした。よく頑張つてきてくれました。ありがとうございます。

また、主将の坂本大治朗君がJOCの県選抜選手に選ばれた。おめでとう。

女子卓球団体戦報告

女子卓球部顧問 中込 範彦

卓球の県大会は7月24日(木)に小瀬スポーツ公園体育館で行われました。一回戦の対戦相手は県新人大大会4位の塩山中学校でしたが、試合前の練習を見ているとそれほどレベルの差があるようには思いませんでした。しかし、いざ試合をしてみると思うようにはゲームを取れず、一回戦で敗退してしまいました。来年は県大会1回戦突破を目指し、練習を重ねていきたいと思えます。応援ありがとうございます。

県総体の裏で

陸上部顧問 野倉 英明

結果はHPに掲載した通りですが主な成績を再掲しますと、部長の今井貴人が共通男子110mハードルで貴録の優勝、山田幸乃が選手層の厚い2年女子100mで準決勝進出を果たしました。しかし舞台裏では、我が部の老朽化したテントを心配したり、男子短距離のエリアが会場を間違えて朝いなくなったり(試合には無事間に合いました)、顧問の武川がインタビュー役員との掛け持ちで引つ張りダコにされていたり、いろいろ大変な2日間でした。

県総体の結果

野球部顧問 内藤 伯哉

7月24日・25日・27日に開催された山梨県総合体育大会に出場しました。1回戦は玉幡中でした。玉幡中とは県選手権大会で対戦し、勝ちました。一度勝っている相手ですが、気を緩めずに試合に挑みました。しかし、3vs11という大差で負けてしまいました。春に山梨県2位になったチームが夏では県大会の初戦敗退となつてしまいました。

試合後の先輩たちの悔し涙を忘れずに！2年生にも頑張ってもらいたいです。

県総体三位

サッカー部顧問 齋藤 裕一

サッカー部の県総体は、逆転や延長、PK戦までもつれる厳しい試合の連続でしたが、粘りのサッカーで準決勝まで勝ち進みました。そして、目標としてきた関東大会出場まであと一勝でしたが、最後の試合は後半の追い上げも及ばず敗れ、県三位という結果で大会を終えました。三年生は、部活動を通して辛い時でも逃げずに立ち向かう強い人間に成長しました。この同じ目標に向かって戦った仲間、いつまでも親友として大切にして欲しいです。大会中は保護者の方をはじめ、たくさんの方から暖かい応援を頂き、本当にありがとうございます。

NHK全国学校音楽コンクール

山梨県大会 銅賞

合唱部顧問 中村 圭世

8月6日(水)に開催されました第81回NHK全国学校音楽コンクール山梨県大会に参加してきました。3年生にとっては最後の大会となるため、限られた時間の中で熱心に練習に励んできました。本番ではこれまでの練習の成果を充分に出し、聴く人に感動を与えられる美しい歌声を披露することができ、見事、銅賞をいただくことができました。本校の合唱部がNHKのコンクールで銅賞をいただくのは6年ぶりです。これを励みに、これからもさらに練習に励み、レベルアップを目指していきたくて思っております。

体育祭

青組顧問 山岸 航

「優勝は、青組!...」その言葉を聞いたときは、本当に嬉しかったです。今年は前日までの天候にも恵まれず、練習時間も短かったの

で、生徒たちが体育祭の流れを把握しているかさえ、不安でした。青組の生徒たちは、よくやってくれたと思います。

体育祭の前日に、クラスの生徒たちの意気込みを聞きました。意外にも、単に「優勝したい」という意見は少なかったです。「結果はどうであれ、終わったときに笑っていられれば...」と考えている生徒が多かったように思います。他にも、「ただ勝つだけでなく、ルールを守って、怪我のない体育祭にしたい」など。生徒たちの成長を感じました。入場行進で結果が良かったのは、その思いが表れたのかもしれない。

特に3年生は、勝つために一生懸命作戦を考え、練習も本番も1年生に声かけをしていました。ちょうど2年前に、自分たちがしてもらったように引つ張っていましたね。そういった部分では、確実に意志は引き継がれるのですね。きつと他の色でも2年生や1年生が、来年以降後輩たちを引つ張ってほしいのです。

閉会式で入場している青組の生徒たちは、吹奏楽部の演奏する「風になりたい」の曲の中で、晴れ晴れとした顔つきでした。きつと「やりきった」という達成感があつたと思います。この優勝した自信を持って、次は学業に専念し力を発揮してほしいところです。青組、優勝おめでとう!

そして、もう1つ書いておきたいことがあります。優勝直後に「青組、優勝おめでとうございます。」と言ってくれた他色の生徒諸君には驚きました。相手が喜んでることが嬉しいと素直に思えるのは立派ですよ。そんな人間を目指してほしいです。

赤組顧問 中島 朋子

1D、2D、3Cと、今年度の文化祭優秀賞チーム連合で臨んだ赤組です。クラスごとのチームワークは、文化祭でも証明されていたのですが、縦割りではなかなか、三年生の熱が、届

ける側も受け取る側も空回り?な状態でのスタートでした。ですが、どのチームよりも最初に集合して集団行動をしつかりする姿勢を示していくことで勝利もついてくると信じて、各種目の練習に臨むことができました。当日は満足いかない順位だった種目もあります。しかし、そこで皆の気持ちを背負って挑んだという勇気が大切です。団長を中心に、その一言や後押しでどんなに勇気をもつことができたか、そして言葉の重みを感じることができたか、最善を尽くした結果がどんな形であっても感謝してもらえのかを感じ取ってくれば、色顧問として嬉しいことはありません。優勝は青組に渡してしまいましたが、気持ちでは負けず、最後に一位で駆け抜けた男子リレーのように、清々しく終わることができたと思います。赤組さん、本当にお疲れ様でした。そして保護者の皆様、応援ありがとうございました。

白組顧問 鶴田和也

平成26年度の白組は3B、2C、1Bによって構成されました。始業式の日から活動がスタートしましたが、天候に恵まれず、色別活動時間が短かったため、不安を抱えながら本番を迎えたことと思います。3年生は最後の体育祭への気持ち強く、準優勝という結果に涙を流した生徒もいましたが、各種目に出場した選手が力を出し切った結果なので、胸を張ってほしいと思います。障害物競走、リレー女子では2年生の活躍が目立ち、ムカデ女子では第四コーナーで縄がほどけるハプニングがありながらも冷静に対処し感動のゴールとなりました。騎馬戦、障害物競走、綱引き、ムカデ女子、リレー女子で1位となれたのも、学年の枠を超えて盛り上がり、3学年の気持ち一つになった結果だと感じました。体育祭の

メイン種目でもあるムカデ女子とリレー女子での2冠は準優勝には欠かせないものでした。そんな女子に圧倒されているような白組でしたが、女子から絶大な信頼を得ていたのが団長、佐久間嵩揮君です。大きな声でみんなに声掛けをし、後輩の配慮も忘れない団長の背中には日に日に大きく見えるようになりました。団長、三年生を中心に、勝敗に貪欲になりながらも、冷静さを忘れなかった白組の皆さん、お疲れ様でした。勉強にも負けずに取り組んでください。

黄組顧問 塩津 奈央

1C・2A・3Aで結成された黄組。黄組は練習の時点から、行進もバラバラ、綱引きも全敗、ムカデも男女4位、それ以外の競技も正直これといって良い出来ではなかった。このままでは不味いという思いから、団長を中心に朝早くから集まったりと、限られた時間の中で3学年協力し合い練習に励んでいた。その甲斐あって、最初全く息が合わない状態だったムカデが、本番では男子3位、女子2位と記録を伸ばすことが出来た。結果は総合4位という成績に終わってしまったが、生徒たちの声援、頑張りほどの組にも負けていなかったと思う。最初はテントの前面上で応援していたのは三年生だけだったが、盛り上がりつつあるに連れ二年、一年と徐々に応援に参加する姿は、三年の熱い思いが伝わった瞬間のように感じた。クラス、学年という枠を飛び越えて協力すること、一人一人が勝利の為に全力を出し切ること、今年の体育祭で学んだことを胸に、この伝統を受け継いでいってほしい。黄組の生徒たちが閉会式で流した悔し涙は、それだけ真剣に頑張った証である。感動をありがとう。

高校より

雨天バージョン目

体育祭担当 三枝幸雄

去る9月5日(金)に小瀬スポーツ公園において駿台甲府高校の体育祭が行われました。小瀬公園のほとんどを借りしての体育祭ですから、一般の公園利用者が入らない、奇跡の1日を探し出すだけでも大変な気を使う行事です。

昨年から補助競技場の代わりに武道館までお願いして種目数の維持を考えていました。ところが昨年は台風の影響で、全員体育館でのソフトバレーボールになりました。今年も7時半頃からの雨模様で、開会式が体育館に、最初の競技種目の全員リレーが中止の雨バージョン用で行くと8時20分の教員の打ち合わせで決まりました。

ところが、打ち合わせが終わるころから、天気持ち直して、開会式の後、生徒を体育館に待機させながら、県体協との交渉で球技場のサッカーも最後のグラウンド整備をより丁寧にするという条件で、実施の許可をいただきました。サッカー関係者の熱い気持ちがあくまで変えさせたんだと感じました。

そしてこのままの状態で行うと、最終種目の4×100mリレーも実施するという雨バージョン目という過去にない体育祭となりました。7月から8月にかけて行われた南関東インターハイの会場をお借りして、特に室内は空調環境も素晴らしく、快適なコンディションで生徒たちは一日、思う存分競技して心地よい汗を流しました。以下、各種目の優勝クラスと総合の結果です。

- ◇ 1年男子サッカー A組
- ◇ 2年男子サッカー G1組
- ◇ 3年男子サッカー A組
- ◇ 1年男子ハンドボール A組
- ◇ 2年男子ハンドボール A組
- ◇ 3年男子ハンドボール F組
- ◇ 1年男子バレーボール A1組
- ◇ 2年男子バレーボール A1組
- ◇ 3年男子バレーボール A1組
- ◇ 1年女子バレーボール C組
- ◇ 2年女子バレーボール C組
- ◇ 3年女子バレーボール G組
- ◇ 1年女子バスケットボール H組
- ◇ 2年女子バスケットボール E組
- ◇ 3年女子バスケットボール H組
- * 4×100mリレーは3学年男女すべてA組でした。

◎総合成績

- ◇ 1学年 優勝A組、第2位F組、第3位B組
- ◇ 2学年 優勝A組、第2位E組、第3位B組・C組(同点)
- ◇ 3学年 優勝A組、第2位H組、第3位G組



バレーボール



ハンドボール



表彰式



400mリレー



バスケットボール



サッカー

インターハイ結果報告

男子ハンドボール部

山下敏伸

2年連続ベスト8が目標でした。秋田県代表の湯沢高校、愛媛県代表の松山工業高校を順調に破り、ベスト8をかけて山口県代表の岩国高校と戦いました。接戦の末、34対42で惜敗。ベスト16という結果でした。これに勝てば、選抜で惜敗した宮崎の小林秀峰高校にリベンジということでもやや浮足立ったのかもしれませんが、本当に悔しい敗戦でした。たかさんのOBが応援に駆け付けてくれ、インターハイ出場22回という伝統を試合の内外で味わえた大会でした。手にかかる下級生をよくまとめてくれた5人の3年生にひとまず感謝して、来年に向け、また精進を続けたいと思います。応援ありがとうございました。

女子ハンドボール部

益田耕治

2年ぶりのインターハイ出場。3年生にとっては最初で最後のインターハイ。歴代の記録であるベスト16超えに照準を合わせ、神奈川県川崎市へと乗り込みました。初戦、山形県代表の日大山形高校との戦いは、前半は堅さが見られましたが、徐々に雰囲気にも慣れ、調子を上げ、30対20で勝利を収めることができました。その波に乗り、2回戦も長野県代表の屋代高校との試合も終始安定した試合展開で28対14で勝利し、歴代の記録ベスト16に肩を並べ、ベスト8をかけて、大阪府代表四天王寺高校と対戦しましたが、常にリードされる展開となりました。17対28で敗戦となりました。しかしながら、試合終了前5分間のプレーには3年生の思い・努力の結晶が十分に伝わってくる内容でした。3人の3年生が、励まし合い、時にはぶつかり合いながらチームを引っ張

つてきてくれたことに感謝です。今後は更なる飛躍を目指し、日々努力に励みたいと思います。ご声援ありがとうございました。

ソフトテニス部

酒井竜次

7月30日(水)～8月2日(土)に、千葉県白子サニーテニスコートで行われた、平成26度全国高等学校総合体育大会「煌めく青春南関東総体2014」ソフトテニス競技大会個人の部に、本校3年生の若月南・白井慶史郎ペアが、山梨県第5代表として参加いたしました。

当日は全国大会という大舞台で体が硬くなり、思うようなプレーができませんでしたが、遠方にもかかわらず多くの保護者、卒業生のみなさんに応援に来ていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。今後も多くの部員が好成績を残せるよう、練習に励みますので、応援よろしくお願いいたします。

一回戦

若月・白井0-4佐々木・小形(佐賀・唐津東)

水泳部

小高 淳

今年度のインターハイの競泳競技は、8月17日～20日に千葉県国際水泳場で行われ、本校からは、個人2種目、団体1種目に出場し、以下のような成績でした。

男子100m背泳ぎ 保 暁人君(3年) 14位

女子50m自由形 齊藤 千遥さん(1年) 41位

女子4×100mフリーリレー 25位

齊藤千遥さん 小西麻友さん

岩間千花子さん 岩本紗季さん

私自身、4日間競技役員をしていたので、生徒たちのレースをゆっくり見ることができ

きませんでした。どの選手も、今の自分のできる力を精一杯出し切り、山梨県代表として堂々と戦ってきたと思います。今シーズンもまだまだ大会が続きます。今回インターハイに出場した選手たちを中心に水泳部を盛り上げ、一人でも多くの生徒たちがベストを更新し、来年度以降、関東大会、インターハイ出場者を増やしていきたいと思っています。

インターハイに参加して

サッカー部顧問 長谷川亮太

8月1日～8月8日に行われました、山梨インターハイに我々サッカー部員18名が補助員として参加しました。各都道府県の代表という責任感と緊迫感が漂う中、我々は会場準備設置、担架、得点版など選手の汗や呼吸が届く距離で貴重な経験をさせていただきました。ゲームのレベルの高さにも感動しましたが、それ以上に選手たちがサッカーに懸ける思いや覚悟を肌で感じる事ができました。40年に1度といわれるインターハイがこのタイミングで訪れたことに感謝します。ありがとうございました。

卓球部補助員 内田涼介

私たち卓球部は8月2日から9日間、インターハイ補助員として参加しました。補助員として、出場する選手が試合にのみ集中できる環境をつくることを第一に心掛け係にあたりました。また、全国レベルの選手の素晴らしいプレーを誰よりも間近で見、独特な緊張感を感じたとともに、技術面・精神面ともに多くのことを学ぶことができたと思います。この9日間で学んだことを今後の練習や大会で少しでも生かしていきたいです。

野球部補助員 鈴木優太

野球部は陸上競技の駐車場の補助員としてインターハイに参加しました。山梨を訪れた選手がベストを尽くせるように明るく元気に接しました。

応援の方々にも良い印象をもって帰ってもらえるように挨拶、態度などに気をつけました。広い駐車場が日本各地のナンバーのバスや乗用車で一杯になり、さすがに全国大会だという雰囲気でした。

山下黎君の応援もでき、3位になった瞬間のスタジアムのどよめきは、忘れることはできません。高校スポーツの注目度、全国で勝つことの難しさも感じました。

美術デザイン科のS

高橋典裕

この夏も、美術デザイン科では、新しく始めたものを含めて、様々な活動を行いました。

7月19日のオープンキャンパスにおいては、在校生が行っている夏期講習会の一日目の様子の見学や、スライドを使つての学校紹介などをメインに実施しました。生徒が映像に合わせて、アテレコをしたことが好評で、アンケートの中にも、とても良い感想が多く「学校生活のことがよくわかった」とのコメントが多く書かれていました。

7月24日には、県立図書館「かいぶらり」の交流スペースで、「びでかつくりば」と称した、ワークショップを開催しました。初めてのイベントでしたが、缶バッジやキーホルダーの制作に、小・中学生とその保護者の方が来場してくれました。お昼のテレビニュースに取り上げられた影響からか、午後には会場いっぱい参加者に恵まれてうれしい悲鳴を上げました。

7月の終わりに、高校総合文化祭の美

術・工芸部門で代表となった3年の新海帆南さんを連れて全国高校総合文化祭へ参加するため、茨城県の水戸市へ行きました。山梨県からは7人が代表として参加し、県内はもちろん、他県の高校生とも交流を深めながら作品について語ったり、一緒に提灯を作るなどして有意義な時間が過ごせたようです。

8月の2、3、4日は、恒例の「清里合宿」を行いました。今回は1年生の参加が



多く、にぎやかな合宿となりました。男子



の参加は1名だけでしたが、圧倒的多数の女子に負けず、精神的にスケッチをしていました。夜にはお互いの作品について、意見交換や、講評をタツパリと時間をかけて、行うことができまし

た。長時間にわたる取り組みにより、技術面だけでなく精神面・体力面でも収穫が大いに見られました。